佳作

二つの命

御成門中学校　工藤　達勝

皆さんは虫が好きですか？私は大好きです。なぜなら虫には我々と違ったものを持っているからです。しかし私自身もそれが何かわかりません。でもそんな感じがするのです。

私は虫を殺したくありません。理由はいくつかあります。

一つ目は先程も書いた「虫には我々と違ったものを持っている」と考えているからです。実際持っているかどうかなんて考える人によって意見は違うと思います。

二つ目は「どんなに小さい虫でも小さい命で生きている」という考えです。小さい虫も我々と同じ命を持っています。その命を簡単にうばうという事は絶対に許されません。それは人殺しと同じことです。大きい命をうばっても小さい命をうばっても結局それは元をたどれば同じ殺すという行為なのです。人は人を殺すという事を重く見て罰を下します。そして殺した人には罪悪感が残り、殺された人には後悔が残ります。これを人と虫に例えてみましょう。人は虫を殺すという事を軽く見るどころか考えもしません。そして罰を下そうともしません。そして罪悪感も残らず、残るのは虫の後悔だけです。この差は何でしょうか。大きさは違えど同じ地球に住んでいる命なのに。虫を殺したら罰を下せとは言いませんが少しは罪悪感を持ってほしいです。もし、人と虫の立場などが全て逆だったら…。そう考えると人はすぐに消えてしまいます。なぜなら人より虫の数のほうが多いからです。人と虫は進化の道が少し違っただけで元は同じなのです。それを忘れずにこれからも生活をしたいです。

私にはもう一つできないことがあります。それは「食べ物を残すことです。」

これをお米で例えてみましょう。お米は元々生きていました。しかし人々によって根を抜かれ、いろいろされて食卓の前にでてきます。この時点でお米はもう死んでいます。しかしそれを残飯として捨てるという事はお米を二度殺すという事です。

お米は自分の命を犠牲にして我々の命をつなげてくれます。それを残すということはお米の犠牲・命を無駄にするという事です。これは先程書いた虫を殺すという事とやることは違えど結果は同じです。

この例え話しはお米だけではありません。いろいろな食べ物も同じです。

私の実家は農家をしています。お爺ちゃんやお婆ちゃんは言っていました。「人の供養と虫の供養は心。お米や野菜の供養は食。」私は最初この事が全く分かりませんでしたが、今は分かります。人と虫の供養は心。これはそのまんまです。お米や野菜の供養は食。これは一度失った命をもどすのは不可能。なら食べて供養をしよう。という事です。だからいただきますという感謝の言葉があるのです。